

**本州最北端・青森県**

旅行期間：令和04年（2022年）・8月02日（火）～ 8月05日（金）・4日間

利用航空会社：JAL（JL）

（株）ハッピートラベル

日次	月日 (曜)	発着地/滞在地名	現地時間	交通機関名	スケジュール	食事
1	2022年 8月02日 (火)	福岡空港集合 ターミナル南・1階	06:30		※ <u>ご集合場所</u> ：福岡空港・国内線ターミナル 南・1階 JAL チェックイン・カウンター前	
		(1階)	06:45		お荷物は福岡空港より通しで、羽田経由、青森県の青森空港まで預けます。	
		(2階)			1階にて搭乗手続完了後、出発前の説明を致します。	
		福岡空港発	07:30	JL-302	空路、羽田空港へ(所要：1時間30分)。	
		羽田空港着 (第1ターミナル・2階)	09:00		羽田空港・第1ターミナル・2階着後、搭乗ゲートを移動。	
		羽田空港発	09:55	JL-143	空路、青森県の青森空港へ(所要：1時間20分)。	
		青森県 青森空港着	11:15		青森県・青森空港到着。荷物受領後、貸切バスへ。 ※バス会社： ※バスガイド：	
		青森空港発 (所要：30分)	11:30	専用バス (大型)	ガイドと共に、大型貸切専用バス(45人乗り)で、 青森市内の <u>寿し店</u> へご案内(所要30分)。	
		青森市内着	12:00		昼食は、「下北半島の大間」から取り寄せる本場の マグロを味わっていただける、こだわりを持った 「 <u>鮨処すずめ</u> 」です。	昼
		青森市内発 (所要：20分)	13:00	専用バス	縄文時代の暮らしを今に伝える集落遺跡へ。	
さんない 三内丸山遺跡着	13:30		●午後： <u>縄文世界文化遺産「三内丸山遺跡」見学。</u> (所要90分)  “縄文の定説を見事に覆した、キングオブ縄文遺跡”  日本を代表する大規模集落遺跡。出土した土偶は 2000点を超え、現在も発掘調査は継続中。 計画的なムラづくりや自然資源の利用といった縄文人 の暮らしぶりが明らかになり、それまでの縄文時代の 考えに大きな影響を与えました。その雄大さと悠久の 時を是非感じてほしいものです。  「 <u>三内丸山遺跡(さんないまるやまいせき)</u> 」は、 江戸時代から知られている有名な遺跡です。 平成4年(1992年)から始まった発掘調査では、縄文 時代前期～中期(紀元前約3,900～2,200年、現在から 約5,900～4,200年前)の大規模な集落跡が見つかりま した。たくさんの竪穴建物跡や掘立柱建物跡、盛土、 大人や子供の墓などのほか、多量の土器や石器、貴重な 木製品、骨角製品などが出土しました。  青森県は遺跡の重要性から、縄文時代の「ムラ」を体験 できる場所として、三内丸山遺跡の保存・整備・活用 をこれからも進めていきます。  「 <u>縄文時遊館</u> 」館内のミュージアム・ショップでの ここでしか手に入らない限定アイテムや、レストランで の縄文人が食べていたとされるスイーツもおためし 下さい。			

※日程及び交通機関は変更になる場合があります。

**本州最北端・青森県**

旅行期間：令和04年（2022年）・8月02日（火）～ 8月05日（金）・4日間

利用航空会社：JAL（JL）

（株）ハッピートラベル

日次	月日 (曜)	発着地/滞在地名	現地時間	交通機関名	スケジュール	食事
		三内丸山遺跡発 (所要：40分) (距離：24km)	15:00	専用バス (大型)	青森県のほぼ中央に位置する複数火山の総称である「 <u>八甲田山</u> 」系の火山起源の温泉で、世界有数の豪雪地帯で有名な「 <u>酸ヶ湯(すかゆ)</u> 」方面へ。	
		八甲田 ロープウェイ山麓駅発 (標高：660m)	15:40	ロープウェイ	「八甲田ロープウェイ山麓駅」の位置する、標高660mの田茂范岳(たもやちだけ)の山麓から、標高1,324mの「八甲田田茂范岳山頂駅」迄の、距離2459m、標高差約650mを、10分ほどで結びます。	
		(所要：10分)			「 <u>八甲田山</u> 」とは、 <u>十和田八幡平国立公園の北部に横たわる連峰の総称</u> で、主峰「八甲田大岳(1585m)」を中心に、10余を数える山々から構成されています。	
		八甲田 ロープウェイ山頂駅着 (標高：1,324m)	15:50		ロープウェイからは、360度の展望を楽しむことができ、岩木山・白神山地・津軽平野・陸奥湾はもちろん、遠くは北海道まで見渡せます。	
					●午後：「 <u>十和田・八幡平国立公園・八甲田山頂公園</u> 」散策。	
					注：ロープウェイが運休の場合は、散策コースを変更いたします。	
					ロープウェイ山頂公園駅のある田茂范岳一帯は、10指に余る池や沼が散在し、高山植物の一大宝庫となっていて、八甲田山で最も素晴らしい場所の一つに数えられているところです。この雄大な大自然を散策する遊歩道が、ひょうたん型をしているところから、ゴードラインという名で呼ばれているもので、老若男女を問わず、だれもが気軽に散策できます。	
		八甲田 ロープウェイ山頂駅発 (標高：1,324m)	16:30	ロープウェイ	ロープウェイにて、下山します(所要10分)。	
		八甲田 ロープウェイ山麓駅着 (標高：660m) (所要：15分)	16:40	専用バス (大型)	「 <u>酸ヶ湯温泉</u> 」へと向かいます(所要15分)。	
		酸ヶ湯温泉着 (標高：925m)	17:00		●「 <u>酸ヶ湯温泉旅館</u> 」にチェックイン(2連泊)。	
					江戸時代から愛されてきた古湯で、八甲田連峰最高峰の八甲田大岳(1,585m)の西麓、標高925mの高地に佇む山の温泉の一軒宿。 名物は、湯治場風情漂う160畳の総ヒバ造りの「ヒバ千人風呂」で、全国から温泉ファンが訪れます。	
					旅館到着後、お部屋割りを済ませ、各人の客室へ。	
					● <u>名物の湯治場風情が漂う、混浴のヒバ千人風呂に入浴</u> 。	
					※棟方志功など県内ゆかりの作家の作品を常設展示してある「ギャラリーー神舞閣」も楽しみます。	
			18:30		青森県産の山海の幸を使ったお膳。どこか懐かしい故郷の味力が詰まった心づくしのおもてなしの品々が並ぶ、ご夕食を楽しみます。	夕
					〔 <u>酸ヶ湯温泉旅館泊</u> 〕 (酸ヶ湯温泉泊)	

※日程及び交通機関は変更になる場合があります。



**本州最北端・青森県**

旅行期間：令和04年（2022年）・8月02日（火）～ 8月05日（金）・4日間

利用航空会社：JAL（JL）

（株）ハッピートラベル

日次	月日 (曜)	発着地/滞在地名	現地時間	交通機関名	スケジュール	食事
			19:10		<p>「青森ねぶた祭」は、本州最北の地に燃え上がる炎の祭り。大地を揺るがし勇壮に出陣する22台の大型ねぶた。闇の中に極彩色の光を放つねぶたたちは、いずれも華麗で勇壮な姿で登場する。豪快な太鼓の音が轟きわたると、笛の根が響き、ラッセ、ラッセの大きな声とともに大群衆のハネトたちも登場。短い夏を惜しむように圧倒的なパワーで燃える夏の祭り。</p> <p>大地を揺るがす勇者たちの晴れ姿を、とくにご覧あれ！！</p> <p>役員団を先頭に、子供ねぶた〇台が出陣し、その後に、大型ねぶた〇台が続いて出陣します。</p> <p>青森ねぶた祭は、太鼓の響きとハネトの「ラッセラー」のかけ声で始まります。ねぶたの極彩色の輝き、囃子の響き、ハネトの大群衆、どれをとっても迫力満点。</p> <p>ねぶたを積極的に楽しむために、大きなねぶたをこちらに振り向かせる方法、それは盛大な拍手です。曳き手はそれに合わせてぐるっと回転したり、曳き手が宙に浮くくらい傾いて接近してくれます。盛大な拍手と歓声とともに一台一台のねぶたに込められた思い、そしてその迫力を目に焼き付けてください。</p> <p>観客の拍手を受けた扇子持ちの合図によって、重いねぶたを右に左に曳く人たち。くるっと回って見せたり、びたっと観客の前で止めたりと、自由にねぶたを操作します。曳き手一同が力を合わせて、観覧者の声援に応えます。</p>	
		青森市内発 (所要：60分)	20:30	専用バス	<p>栈敷席を発ち、バス駐車場までと徒歩移動後、専用バスにて、酸ヶ湯温泉へと戻ります。 (所要60分)</p>	
		酸ヶ湯温泉着	21:30		<p>温泉到着。もう一度温泉をお楽しみ下さい。</p>	
					<p>【酸ヶ湯温泉旅館泊】</p> <p>(酸ヶ湯温泉泊)</p>	

**本州最北端・青森県**

旅行期間：令和04年（2022年）・8月02日（火）～ 8月05日（金）・4日間

利用航空会社：JAL（JL）

（株）ハッピートラベル

日次	月日 (曜)	発着地/滞在地名	現地時間	交通機関名	スケジュール	食事 朝	
3	8月04日 (木)	酸ヶ湯温泉発	09:00	専用バス	<p>※いよいよ、「津軽半島」への旅の始まりです。</p> <p>※青森県の2大半島のひとつ、「津軽半島」は、起伏ある地形を生かした、風光明媚な景色のドライブが魅力です。</p> <p>「津軽半島」は、本州の北端の半島のひとつです。東岸は、青森湾・陸奥湾とその開口部である平館海峡を挟んで、「下北半島」に対峙し、一方、北岸は津軽海峡を挟んで、北海道松前半島に対峙し、西岸は日本海です。</p> <p>津軽半島中央部に広がる「津軽平野」は、主に米の生産が盛んです。</p> <p>青森市内を通過し、青森湾沿いに280号線を北上し、水田が広がる見通しが良い道を、かの文豪・太宰治が「風の町」といった「蟹田」へ。</p> <p>津軽と下北、青森県の2大半島を結ぶ「むつ湾フェリー」の港がある「蟹田」から、海岸線を離れて、半島内陸部に入り、蟹田川そして今別川沿いに「奥津軽いまべつ」を経て、「今別」から外ヶ浜町、三厩（みんなや）地区の、「津軽海峡三厩湾」で再び、海沿いに、国道339号線にて、津軽半島最北端で、津軽国定公園の一部で、津軽海峡に突き出した岬、「竜飛岬（たっぴみさき）」の位置する、外ヶ浜町の「龍飛崎温泉」へ。</p>	朝	
		竜飛崎温泉着	11:30		<p>※「ホテル竜飛」にて昼食。 TEL:0174-38-2011 目の前に海が広がる海は、津軽海峡。 天気がよければ北海道の山なみを一望できます。</p>		昼
		竜飛崎温泉発	12:20		<p>昼食後、風の岬「龍飛崎灯台」へ。</p>		
		竜飛崎灯台着	12:25		<p>●午後：「龍飛崎灯台」へ。 津軽半島の最北端、津軽海峡に突き出した岬で、津軽国定公園の一部です。 石川さゆりのヒット曲「津軽海峡冬景色」の歌詞の一節に唄われていることでも知られています。</p> <p>周辺は灯台を中心に遊歩道となっており、天気のよい日には津軽海峡を挟んだ北海道の松前半島や、海峡を行き交う船舶が見渡せる。また、渡り鳥の飛行ルートとしても重要であり、しばしば鳥類研究家が観察のために双眼鏡を構えています。</p> <p>海から1日中強い風が吹き付ける土地柄で、冬季でも降った雪が風に飛ばされ、深く積雪することは少なく竜飛岬では、吹き付ける強風を利用して風力発電が行われています。</p> <p>北海道の白神岬とは津軽海峡を挟んで19.5キロメートルの距離があり、地下を青函トンネルが通っています。青函トンネルの着工開始から完成までの全行程における殉職者34名の碑が建っています。東北楽天イーグルスの公式球団歌「羽ばたけ楽天イーグルス」の歌詞の一節に、青森県の象徴として唄われています。</p>		

※日程及び交通機関は変更になる場合があります。

**本州最北端・青森県**

旅行期間：令和04年（2022年）・8月02日（火）～ 8月05日（金）・4日間

利用航空会社：JAL（JL）

（株）ハッピートラベル

日次	月日 (曜)	発着地/滞在地名	現地時間	交通機関名	スケジュール	食事
		青函トンネル記念館着	12:50		<p>●午後「青函トンネル記念館」体験ツアー（40分） TEL:0174-38-2301</p> <p>海底240m、総延長53.85km。 津軽海峡の海の底を貫く「青函トンネル」。</p> <p>海面下140mの世界を体験できる「体験坑道」へは「青函トンネル竜飛斜坑線 もぐら号」に乗り込んで斜度14度の斜坑を、わずか7分でご案内します。 今も利用されている地下坑道の一角に、特別展示エリアを設け、実際に掘削に使われた機械や器機などを展示、当時の現場を再現展示しています。</p> <p>「体験ツアー」の所要時間は約40分。 世界へ誇る大事業をぜひ体感してください。 「展示ホール」では構想から42年、過酷な条件の中で繰り広げられた数々の軌跡を、当時の資料をもとに音や映像、立体モデルなどを交えて、わかりやすくご紹介しています。</p> <p>体験坑道→展示ホールの順でご案内。</p>	
		青函トンネル記念館発 (所要:15分)	14:00	専用バス	海岸線を走る国道339号線を南下し、竜飛岬から小泊までの間は、「竜泊ライン」と呼ばれていて、変化に富んだ景色が楽しめます。	
		展望台・眺瞰台 (所要:30分)	14:15		途中、「展望台・眺瞰台」からの展望を楽しみます。	
		道の駅こどもり着	14:50		「道の駅こどもり」にて、休憩。	
		道の駅こどもり発 (所要:30分)	15:10		津軽半島北西部の日本海岸にある“汽水湖” 「十三湖（じゅうさんこ）」へ。	
		十三湖着 (津軽国定公園)	15:40		<p>●午後：「道の駅 十三湖高原 トーサム・グリーンパーク」にて休憩し、名物の「しじみ汁」を味わいます。 TEL:0173-62-3556</p> <p>青森県で3番目に大きな湖、「十三湖」は、周囲約31.4km、水深約3m。日本海に面した汽水湖です。</p> <p>南方より流入する「岩木川」が、日本海に向かう途中、砂洲によって塞ぎ止められ、汽水湖となりました。 名産は「ヤマトシジミ」で、宍道湖、小川原湖と並ぶ、日本有数のシジミ産地です。</p> <p>「道の駅」は、十三湖畔の高原牧草地内にあり360度のパノラマに、秀峰岩木山、八甲田連峰、中山山脈、そして日本海を望む、風光明媚な地です。</p>	
		十三湖発 (所要:20分)	16:00		津軽鉄道の北の起点・「津軽中里」へ。	

※日程及び交通機関は変更になる場合があります。

**本州最北端・青森県**

旅行期間：令和04年（2022年）・8月02日（火）～ 8月05日（金）・4日間

利用航空会社：JAL（JL）

（株）ハッピートラベル

日次	月日 (曜)	発着地/滞在地名	現地時間	交通機関名	スケジュール	食事
		津軽中里着	16:20		ちょっと早目の夕食を「くつろぎダイニング哲」にてご用意。	夕
			16:50	徒歩	津軽中里駅へ、徒歩にて移動。	
		津軽中里駅発	17:08	津軽鉄道	昔は津軽半島の木材を運ぶ森林鉄道として栄えた、日本最北の小さな私鉄、「津軽鉄道」にて、終点の津軽五所川原駅までの37分は、車窓から穀倉地帯や津軽山地の四季の移ろいを楽しむことができます。	
		(所要:37分) (距離:20.7km)			青森三大ねぶたのひとつで、巨大な「五所川原立佞武多」で有名な街で、奥津軽の「五所川原」へ。	
		津軽五所川原駅着	17:45		五所川原駅着後、市内の棧敷席へ。	
			18:00		●「五所川原立佞武多(たちねぶた)の館」前から、ねぶたが出陣します。	
					今や全国的にもその名を轟かす五所川原「立佞武多」。	
					平成十年より、毎年新作の大型立佞武多が製作され、平成十二年に初めて三大の大型立佞武多が運行されました。この年より、新作一台を加えた三大の大型立佞武多が運行される祭り形態となっています。	
					立佞武多の規模は、おおよそ七階建てのビルに相当する高さ約二十三メートル(台座約十メートル・人形約十二メートル)、総重量約十九トン。人形部分のパーツは約十五～十八個ありそれを組み立てていく。その材料の多くは、他のネプタと同様、木と針金、糸、紙。表面を形作る紙は面積にして畳六百枚以上、針金は七百キログラム、材木は約二トンを使用。照明は電球又は電球型蛍光灯区百五十個、蛍光灯約二百本を使用。最近では、LED照明も使われている。一辺約六メートルの鉄骨の台車でその威容を支えています。	
			18:10		●夜:「五所川原立佞武多」を棧敷席にて観覧。	
			18:30		「祭り」がスタートします。	
					会期：令和4年・8月4日（木）～8月8日（月） 運行：立佞武多・ねぶた合同運行 時間：19:00～21:00	
					【もつけ 祭り人たち】 「ヤッテマレ」の掛け声は、昔、他町会のネプタを壊していた風習（喧嘩ネプタ）の名残り。「やってしまえ！」と、叫んでいる。  彼からは、実に「もつけ」（祭りバカ）である。日本各地にその手の人間はいるものだが、五所川原の「もつけ」も体の芯から夏の饗宴を楽しむ祭り人だ。祭りの数日にすべてを注ぎ込むかのように騒ぎまくる。 そう、文字通り「血がじゃわめぐ（津軽弁で騒ぐ）」のだ。一心不乱に踊りや囃子に没頭する。彼らのパフォーマンスもまた、祭りの一部となる。	

**本州最北端・青森県**

旅行期間：令和04年（2022年）・8月02日（火）～ 8月05日（金）・4日間

利用航空会社：JAL（JL）

（株）ハッピートラベル

日次	月日 (曜)	発着地/滞在地名	現地時間	交通機関名	スケジュール	食事
					<p><b>【囃子方】</b></p> <p>一般には、桶作りの大太鼓に中小の担ぎ太鼓、横笛、手振鉦で構成される。鉦を小槌で叩くガガシコが音に幅を与えるが、これをやる者はあまりいない。手振鉦は、お囃子には欠かせない楽器のひとつで、シャンシャンと、小気味いい音を響かせる。掛け声も大きな存在を成している。</p> <p><b>【踊り手】</b></p> <p>従来は盆踊りなどの流し踊りが街を彩っていた。平成10年から新しい流し踊りが考案され、立佞武多を先導している。また現在でも婦人方による流し踊りが行われている町内もあり、趣を添えている。</p> <p><b>【曳き手】</b></p> <p>一般のネプタは曳き手によって、回したり、揺らしたり（見栄を切る）等々の動きを与えられるが、重量19トンの立佞武多は、通りをいかに安全に、スムーズに運行するかが最重要。前後の車輪で向きを操作し、曳き手全員の力が一つとなり動き出す。</p> <p><b>【化け人】</b></p> <p>化人（バケト）は、大正末期に大流行されたとされる。序章や歌舞伎など、題材は多彩、定義はコスプレでないこと。顔に化粧し、誰かわからないようにすること。見学客にいやな思いをさせないこと。露出しないこと・・・。</p> <p><b>※3年ぶりのねぶたを、お楽しみ下さい。</b></p>	
		五所川原市発 (所要：30分)	20:30	専用バス	五所川原の南東に位置する、藩政時代の面影を今も残す古都「 <u>黒石</u> 」へ。	
		黒石着	21:30		<p><b>※「<u>こみせの宿 ホテル逢春(ほうしゅん)</u>」に1泊。</b></p> <p>令和3年民間建造物部門の最優秀賞に選ばれた宿です。</p>	
					<b>【こみせの宿ホテル逢春(ほうしゅん)泊】</b>	<b>(黒石泊)</b>

※日程及び交通機関は変更になる場合があります。

**本州最北端・青森県**

旅行期間：令和04年（2022年）・8月02日（火）～ 8月05日（金）・4日間

利用航空会社：JAL（JL）

（株）ハッピートラベル

日次	月日 (曜)	発着地/滞在地名	現地時間	交通機関名	スケジュール	
4	8月05日 (金)	黒石発 (所要15分)	08:00	専用バス	ご希望の方は、400年以上の歴史を持つ「温湯(ぬるゆ)温泉郷」へ。	朝
		温湯温泉郷着	08:20		●午前:鶴の名湯「温湯温泉」にご入浴(各人払い)。  黒石温泉郷の西玄関口にあたり、津軽系伝統こけしの発祥の地として有名です。 塩化物泉の割合が多く、保温、保湿効果のある温泉。	
		温湯温泉郷発	09:20		「鶴の名湯・温湯温泉」は、開湯400数十年前に、脚が折れて傷をいやしている鶴が葦原に舞い降りて、7日間で回復して飛び去ったという伝説に由来します。源泉100%かけ流しの温泉です。	
		黒石着	09:40		ホテル着後、荷物をまとめます。	
					<b>【こみせ通りの歴史】</b> 江戸時代前期、明暦2年(1656年)に黒石初代領主津軽信英(のぶふさ)は、弘前藩主津軽信義の急死により幕府から四代藩主信政の後見役に命ぜられ、弘前藩から5千石を分知されて「黒石津軽家」が誕生しました。黒石津軽家が創立されると、信英は、陣屋を造るとともに、分知以前からある古い町並みに侍町、職人町、商人町を加えて、新しい町割りを行いました。これが、現在の町並みの基本となっています。また、商人町の大きな特徴に「こみせ」があります。こみせの建築年代は、定かではありませんが、信英が町割りをしたときに作らせたと伝えられています。中町や前町は、こみせのある商店が立ち並び、商業の中心として栄えましたが、また、浜街道として多くの人々が集まる通りでもありました。現在でも、江戸時代からの造り酒屋、呉服町、餅屋などの商店や当時の生活のあかしである「しとみ」や「さつなぎ」が今もなお残っており、こみせのある情緒溢れた町並みとしてたたずんでいます。	
			10:00		●午前:「黒石ねぶた祭り」開催予定・見学。 町内を練り歩くねぶたが真近に見られます。	
			12:00		創作料理の店「蔵よし」にて、黒石の食を頂きます。	昼
		黒石発	13:00		青森空港へご出発(所要40分)。	
		青森空港着	13:40		青森空港着後、JALカウンターにて搭乗手続。	
		青森空港発	15:10	JL-146	空路、羽田空港へ(所要:1時間20分)。	
		羽田空港着 (第1ターミナル・2階)	16:30		羽田空港・第1ターミナル2階着後、搭乗ゲートを移動。	
		羽田空港発	17:10	JL-327	空路、福岡へ(所要:1時間50分)。	
		福岡空港着	19:00		福岡空港着後、荷物受領、ごあいさつの後、解散。皆様のご自宅へ。～大変、お疲れさまでした!!～	

※日程及び交通機関は変更になる場合があります。

**本州最北端・青森県**

旅行期間：令和04年（2022年）・8月02日（火）～ 8月05日（金）・4日間

利用航空会社：JAL（JL）

（株）ハッピートラベル